

## 鈴木興太郎教授：略歴・研究概要

2006年4月3日

### I. 略歴

氏名 鈴木興太郎

生年 1944年 出身地 愛知県常滑市

#### 現職

一橋大学経済研究所・現代経済研究部門・公共経済学担当・教授  
公正取引委員会・競争政策研究センター・所長（兼任）

#### 教育歴

1966年3月 一橋大学経済学部卒業

1968年3月 一橋大学経済学部大学院修士課程卒業

1971年4月 一橋大学経済学部大学院博士課程単位取得退学

1980年10月 一橋大学経済学博士・学位論文：*Rational Choice, Collective Decisions and Social Welfare*

#### 職歴

1971年4月－1973年3月 一橋大学経済学部専任講師

1973年4月－1982年3月 京都大学経済研究所助教授

1982年4月－1984年11月 一橋大学経済研究所助教授

1984年12月－現在 一橋大学経済研究所教授

2003年6月－現在 公正取引委員会・競争政策研究センター所長（兼任）

この間に、British Council Visiting Scholar, Cambridge University (1973-1974); Lecturer, London School of Economics (1974-1976); Visiting Associate Professor, Stanford University (1979-1980); Visiting Fellow, University of Pennsylvania (1987); Visiting Fellow, All Souls College, Oxford University (1988); Fulbright Senior Research Fellow, Harvard University (1993); Visiting Fellow Commoner, Trinity College, Cambridge University (2000) を歴任。

#### Academic Honour

1984年度日経・経済図書文化賞（対象図書 *Rational Choice, Collective Decisions and Social Welfare*, Cambridge University Press, 1983）。1988年度日経・経済図書文化賞（対象図書『産業政策の経済分析』東京大学出版会、1988年、伊藤元重・清野一治・奥野正寛との共著）。Fellow of the Econometric Society, elected in 1990。1999年度・日本経済学会会長。President of the Society for Social Choice and Welfare, 2000-2001。2004年春季・紫綬褒章。2006年日本学士院賞。

## II. 研究概略

厚生経済学と社会的選択の理論を専攻。代表的な研究は6分野にわたる。

第1の分野は、合理的選択と顕示選好の理論。代表作は、“Houthakker’s Axiom in the Theory of Rational Choice,” *Journal of Economic Theory*, 1977。

第2の分野は、社会的選好順序に関する Arrow の古典的な研究を拡張して社会的選択関数に即して一般不可能性定理を確立した貢献。代表作は、“Impossibility Theorems without Collective Rationality,” *Journal of Economic Theory*, 1976 (Joint paper with D. Blair, G. Bordes and J. Kelly)。

第3の分野は、社会的選択の理論における自由主義的権利論の展開。代表作は、“Individual Rights Revisited,” *Economica*, 1992 (Joint paper with W. Gaertner and P. Pattanaik)。

第4の分野は、競争と経済厚生に関する通念に挑戦する過剰参入定理の確立。代表作は、“Entry Barriers and Economic Welfare,” *Review of Economic Studies*, 1987 (Joint paper with K. Kiyono)。

第5の分野は、伝統的な厚生経済学を特徴つける帰結主義と、それには対立的な非帰結主義の平行な公理化。代表作は、“Characterization of Consequentialism and Non-consequentialism,” *Journal of Economic Theory*, 2001 (Joint paper with Y. Xu)。

第6の分野は、厚生経済学と社会的選択の理論の分析的歴史に対する貢献。代表作は、“Paretian Welfare Judgements and Bergsonian Social Choice,” *Economic Journal*, 1999。

1990年代半ばまでの理論的な研究は2つの主著 *Rational Choice, Collective Decisions and Social Welfare*, Cambridge University Press, 1983; *Competition, Commitment, and Welfare*, Oxford University Press, 1995. に集成された。厚生経済学と社会的選択の理論に関して、*Social Choice Reexamined*, Arrow, K. J., A. K. Sen, and K. Suzumura, eds., Macmillan, 1986-7; *Handbook of Social Choice and Welfare*, Arrow, K. J., A. K., Sen, and K. Suzumura, eds., Elsevier, 2002 and forthcoming; *Intergenerational Equity and Sustainability*, Roemer, J., and K. Suzumura, eds., Elsevier, forthcoming. などの編著がある。経済の制度や政策の理論的・実証的研究には、『日本の産業政策』（東京大学出版会、1984年、小宮隆太郎、奥野正寛との共編著）、『日本の競争政策』（東京大学出版会、1999年、後藤晃との共編著）、『福祉の公共哲学』（東京大学出版会、2003年、塩野谷祐一、後藤玲子との共編著）、『経済制度の生成と設計』（東京大学出版会、近刊予定、長岡貞男、花崎正晴との共編著）、『世代間衡平性の論理と倫理』（東洋経済新報社、近刊予定、編著）、『公共哲学 20：世代間関係から考える公共性』（東京大学出版会、近刊予定、宇佐美誠、金泰昌との共編著）などがある。